

# トングリ村での新たな植樹

## 会報

# モンゴル

VOL65 2016. 6. 15

●発行所 長野県モンゴル親善協会  
長野市県町532-3



地球緑化クラブのメンバーと、新たな植林地の「トングリ村」でシベリア松の60本を植樹

## これからの国に期待

団長 君島 一宇

今年2月、日本国際協力センター主催のモンゴル国訪日団(理数系大学生20人)が千曲市を訪れた際、2人のホームステイを引き受けた縁で、声を掛けられ参加する機会を頂いた。東・南アジア諸国は殆ど訪れていたがモンゴル国は初めての訪問。

5月27日午後12時に成田空港に集合し、現地での植林パートナーである「地球緑化クラブ」の原鋭次郎氏と合流し一緒に訪問することとなった。出国手続きを終え、皆で頑張つて行こうという時、約8時間遅れの22時30分出発とのアナウンスに出鼻を挫かれた感があった。

待ち時間は食事をしながら、原氏から内モンゴル自治区やモンゴル国の植林の現状と重要さを聞き、良い事前学習となった。

28日午前4時現地着。ホテルで朝食と休憩後、ドウガナハド・キャンプ場(向かうアウトバンの車窓から見える果てしなく続く大草原と樹木のない山、牛馬・羊・山羊などの群れが草を食む光景は、思い描いていた景色と同じで、「これがモンゴルだ」と、何ともいえない開放感だった。

長い時間をかけ厳しい環境が作り出した自然の姿と想像したが、かつては1921年、中国から独立した頃か? 山や小高い丘に、シベリア松・カラマツ・白樺などの樹木があったという。計画的伐採と植林が行われなかったためだと聞いてビックリ。これからこの国の取り組みが大切だと感じた。

キャンプ場のゲルでの宿泊は初めて。1泊目は1時間おきにストーブに薪を入れても寒く殆ど眠れなかった。ゲルの宿泊は1泊でよかった。

植林は29日、キャンプ場から約75kmの

トングリ村(人口3千人)で行った。草原や幾つもの山を越え悪路を走ること約3時間余、内臓がかき回され、村の植林活動リーダーで牧師のガンバさん宅で昼食を頂いたが胃袋に受け付ける余裕はなかった。

休憩後、手作りの育苗施設を見学。「カラマツ6千本、シベリア松5百本、ニンテイオ5百本が2年目として育成中で、彼らの森づくりへの熱心さを感じた。原氏はこれを育苗拠点にしたいと希望を語っている。

植林は午後1時過ぎから近くの山で現地スタッフを含め10人余でシベリア松2百本を2時間余で完植したが、乾燥地帯の上、補水施設もなく根付きが心配だが森になることを願っている。

30日はウランバートルに戻り、ザイサンの丘で市内を一望。31日はガンダン寺、巨大チンギスハーン騎馬像などを観光した。市内は車の渋滞が激しく、信号無視や事故も多い。元々車社会を想定した都市設計がされていないためとも言われている。

嬉しかったことは、ガイドのツェクトさんの弟のキャンプ場で乗馬を十分楽しめたこと、食事の時に食べたバントウ(羊肉の出汁に小麦を柔らかくしたスープ)と、ノウイトイ(羊肉の出汁の野菜スープ)がとても美味しかったこと。残念だったことは、2月にホームステイしてくれた2人の大学生に会いたかったが、連絡が取れなかったこと。モンゴルは日本人のルーツとも言われている。これからの国だ、頑張つてほしい。

### 第26次モンゴル国植林交流団

2016年5月27日(金)〜6月1日(水)

#### ■団長

君島一宇 自治労共済本部顧問

#### ■団員

伊藤優 自治労県本部執行委員

峯村理恵子 協会事務局

酒井崇 協会事務局

# 行動記録(抜粋)

5月27日(金)

いよいよ出発の日は

12:10 成田空港第一ターミナル南ウ

ィング4階「I」カウンターで、地球緑化クラブの原代表理事と合流。ジグルインタナショナル社の齊藤代表取締役の説明を受けた。税関を通過し、「57A」ゲートへ。定刻出発の日は、「57A」の待合室で待つよう「アナウンス」が流れた。理由は不明。「ウランバートル市の天候不良で出発が遅れる。最終的に22時30分に延期」とのアナウンスが。待合室で食事しながら、原氏から現地での植林

15:30



待ち時間は宴会に。左から酒井さん、地球緑化クラブの原さん、空港で知り合ったモンゴル国の親子、峯村さん、君島さん

22:30 活動について話しを聞いた。約8時間遅れで出発。

5月28日(土)

5:00 キャンプ地のドウガナハドへ

5:30 チンギスハーン国際空港に到着。

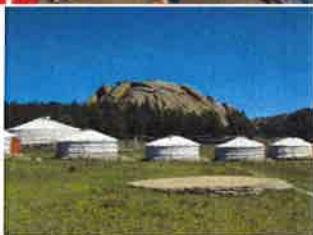
5:30

迎えの車に乗り込み、ウランバートル市の「フラワーホテル」へ。到着が大幅に遅れたためスケジュールを変更し、12時まで自由行動とした。目的地のドウガナハド・ツーリストキャンプ場へ向けて出発。途中、ノミン(スーパーマーケット)でキャンプ滞在中に必要な飲み物などの買い出し。

12:00



買い出したスーパ(上)。一枚岩とゲル



15:00

「ドウガナハド・ツーリストキャンプ場」に到着。ゲルに荷物を運びこみ、観光名所である大きな一枚岩周辺の散策や乗馬など、自由時間を満喫した。今日は気温が大変低く毛布が2枚程度と少ないため皆厚着して就寝。薪ストーブを使用した。

5月29日(日)

トングリ村で植樹活動

7:30

今日の目的地である「トングリ村」へ向けて出発。途中、車のエンジンがかからず困っていた男性がおり、皆で車を押ししたりと、人助けする場面も。

6:00 起床。

10:25

「トングリ」に到着。地球緑化クラブの原氏の案内で、布教活動をして

いるガンバさんの自宅兼教会を訪問し、昼食をご馳走に。その後、中国からロシアへ通じる鉄道の駅を見たり、地球緑化クラブが育てている植樹用のカラマツやシベリア松などの育苗施設(ビニールハウスのような施設)を見学。



車を押ししたりと「苦労働」

13:20

「トングリ」から南西方面にある植樹場所の山へ移動。植樹活動を開始。

地球緑化クラブのメンバーと



地球緑化クラブのメンバーと

19:00

「ドウガナハド・ツーリストキャンプ場」へ向けて出発。

「ドウガナハド・ツーリストキャンプ場」に到着。植樹作業で疲労困憊だったこと、キャンプ場に到着するのが遅くなったこともあり、乗馬や周辺の散策はせず、シャワーを浴び、夕食をとった。

23:00 就寝。



カラマツやシベリア松などの育苗施設

5月30日(月) ショツピングやザイサンの丘見学  
6:30 起床。  
7:30 ウランバートル市へ向けて出発。当初、「日本人墓地」へ



10 : 30

寄ることになってきたが、距離も遠く、移動だけで午前中を費やしてしまう可能性があるため、今回は「日本人墓地」への訪問は見合わせる事になった。

4年前に植樹した「新モンゴル高校」を訪問し、その後の生育状況を確認。キャリア開発センター長の今井氏やJICAのボランティア隊員である篠原氏から、新モンゴル



4年前植樹した「新モンゴル高校」。立派に成長していた

11 : 30

高校について説明を受けた。「ノミン・デパート」でお土産などのショッピング。

14 : 10

「ハートドルジ」というレストランで昼食。カシミア工場に行き、ショッピング。

15 : 00

「ザイサン」の丘に登り、丘の上から市内を一望。写真撮影を楽しむ。



ザイサン（丘上）の民族舞踊コンサート

16 : 20

購入したお土産や荷物を置きに「フラワーホテル」へ。

17 : 10

民族舞踊コンサートを見に行くため、ホテルを出発。

18 : 30

市内が渋滞していたため18時の開演に間に合わず、30分遅れで民族舞踊コンサートを観ることに。

20 : 00

ホテル近くの「モデルン・ノマドス」というモンゴル料理の店で夕食。就寝。

21 : 00

5月31日（火）

急遽、遊牧民宅を訪問することに

6 : 30

起床。

7 : 30

朝食後、市内の「ガンダン寺」を見学。

9 : 40

3年前に植樹した「第55養護学校」へ行き、植樹した樹木が枯れずに管理されている様子を確認。

11 : 00

市内から約70km離れた「ナライハ」に行き、チンギスハーンの巨大な像を見た。

そこに、モンゴル国で初めて宇宙に行ったモンゴル人の方が、ロシア国の関係者達とチンギスハーン像を見に来てい

ガンダン寺でチベット仏教の祈りをする君島さん（上）、2年前植樹した第55養護学校



12 : 30

たので一緒に写真を撮らせて頂いた。コックさんが怪我をしたので、予約していたレストランでの昼食が駄目。そのため、モンゴル人のガイド兼運転手のツェクトさんの弟が住んでいるゲルを訪問し、昼食を頂いた。その



記念写真に納まる酒井さん



遊牧民の方と（上）、草原を満喫する峯村さん

15 : 00



乗馬体験する伊藤さん

18 : 00

後、希望者は乗馬を楽しんだり、遊牧民の生活を体験したりと楽しい時間を過ごした。遊牧民のお宅からウランバートル市へ戻り、ザハ（市場）へ行き、お土産やデール（民族衣装）などを購入した。予約していたレストランで夕食。

21 : 00

ホテルに戻り、明日の帰国に備えて各自準備に追われた。

6月1日（水）

日本へ向けて

6 : 00

起床。

6 : 30

ホテルをチエックアウトし、チンギスハーン国際空港へ。空港に到着。税関を通過後、お土産売り場で最後の買い物。

8 : 50

チンギスハーン国際空港を出発。一路日本へ。

13 : 00

成田空港に到着。訪問団を解散し、各々帰路へ。

# 事務局員紹介

この度、事務局員になりました、酒井崇(さかい たかし)と申します。

2014年1月から2016年1月まで、青年海外協力隊(JICA)として、モンゴル国でパソコンの知識や技術を教えるボランティア活動に参画して参りました。



以前からモンゴル国には興味を持っており、また、JICAでのボランティア活動を通じて、さらにモンゴル国が

当協会では県内各地で開催される国際交流イベントへ参加し、モンゴルの民族衣装、馬頭琴などを展示。岩塩やフェルトのスリッパ、キーホルダーなどの小物の展示・販売などを行い、モンゴル文化の紹介活動を行っている。

# おお!地球人ワールドフェスタIN長野

長野市国際交流団体による「おお!地球人ワールドフェスタIN長野」が2015年11月29日の日曜日、もんぜんぷら座地下1階で行われた。このフェスタには当協会をはじめ、20団体に参加した。冬季オリンピック開催を契機に高まった、市民の国際感覚や国際理解のさらなる向上をめざし、市内の国際交流団体などが参画し、多くの市民の参加を得て、国際交流の場として始まったこのイベントは今年で4回目を迎え、徐々にその知名度も上がってきている。主な内容は、「文化の交流」としてのス



馬頭琴を弾く親子

テージ発表やヨガ体験、「食の交流」としての各国料理の販売、「衣の交流」としての世界の民族衣装の試着、世界の遊び場体験など、様々な交流が行われた。当協会は、フェスタ前日の28日から準備のために波田野事務局長と峯村事務局員が荷物搬入を行い、モンゴル民族の写真や馬頭琴の展示、民芸品の販売などを行った。昨年にならぶ来場者が増えたこともあり、売り上げも前回より増え、国際交流の場として貢献することができたのではないかと、



モンゴル衣装の展示、民芸品を販売

好きになり、今ではモンゴル国は私にとって第二の故郷(ミニー・モンゴル)となっています(モンゴル語では故郷のことを「ミニー・モンゴル(Миний Монгол)」と言います)。これからモンゴル国の素晴らしさや面白さを長野県内に広めていきたいと考えておりますので、「指導」鞭撻のほど、よろしくお願いたします。Badranaa(バイルラー)「ありがとうございます」。

# モンゴル関連の マラソン大会へ行こう

「モンゴル国草原マラソン大会」(20回記念大会)が9月4日に行われ、実行委員会では参加者を募集している。

- 日時 9月4日(日)11:30スタート(開会式11:00)
- 場所 中央県・国家ナードム競馬開催地の大草原
- 主催 モンゴル陸上競技連盟
- 協力 モンゴルマラソン実行委員会(代表・藤原達一)
- 参加種目 3キロ、5キロ、10キロ、ハーフ ※記念100キロ
- 参加資格 健康な方なら子どもから大人まで
- 参加料 1,200円(バス輸送、昼食、パーティー、完走証等)
- 100キロ 6万円(保険、伴走車、医師、給水所、食事、前泊等)
- 締め切り 7月30日(土)
- ※ハーフ優勝者には「馬1頭」と「富士山マラソン」ご招待
- 100キロ優勝者の男女に「ラクダ1頭」、外国人1位に「羊1頭」
- ※草原マラソンホームページ: Mongolia-marathon.org
- ※問い合わせ・申し込み: kon-aya@hotmail.com

事務局 〒3800-0808  
長野市県町5-2-3 労働会館内  
TEL: FAX  
026-259-6717  
http://w2avis.ne.jp/mongol  
事務局は非常勤となっています。お問い合わせは留守番電話がFAXでお願します。